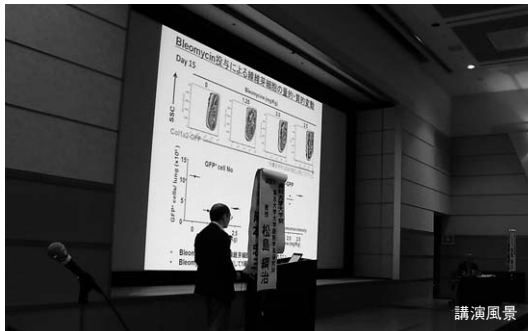


千里ライフサイエンスセミナー

「炎症の慢性化と疾患」



講演風景

炎症とは、発赤、発熱、腫脹、疼痛を主徴とした生体反応で、急性炎症と慢性炎症に大別されます。急性炎症は、近年の免疫学の進歩と共に、かなりその詳細が明らかになってきました。一方、慢性炎症は不明な点が多々ありますが、最近では悪性腫瘍、動脈硬化、肥満、アルツハイマー病などの種々の疾患の発症や進展に関与することが分かってきました。

7月27日(金)、こうした慢性炎症の第一線で活躍する研究者の方々をお招きした「炎症の慢性化と疾患」(コーディネーター：大阪大学特任教授・宮坂昌之氏、富山薬事研究所長・高津聖志氏)が開催されました。

炎症が慢性化する機構を明らかにし、新たな医療技術への開発を目指す中で、その解明へのアプローチには様々な方法がとられています。

講演では、がん細胞でその生存に働いている転写因子Nrf2の作用の解明、悪性腫瘍から分泌され、動脈硬化・肺線維症・神経因性疼痛などの疾患への関与が報告されている脂質メディエーター産生酵素「オートタキシン」の高分解能X線結晶構造及び生物活性の解析、最近の基礎研究におけるブレイクスルーの一つであるマイクロRNAが絡む関節の滑膜組織における炎症収束に関わる分

子ネットワークの解析、慢性炎症のすべての過程に関与する細胞、マクロファージに注目した研究、正常細胞にDNAダメージなど発癌の危険性のある強いストレスを加えることにより誘導される、不可逆的細胞増殖停止(細胞老化)から慢性炎症・



質疑応答

癌に進展するメカニズムの解析、炎症の収束に関わる好酸球の研究、臓器線維化に関する基礎研究が紹介されました。

現代は、こうした新しい視点からの着想と研究、そして従来からある学説との過渡期にあり、基礎的な学説の上に新しい研究を加味していく必要性を強く感じるとの高津聖志先生の締めくくりの言葉が印象的でした。

これらの研究の中で、糖尿病性腎症、多発性硬化症、がんの浸潤・転移や臓器線維症では、薬剤開発が実際に進められていたり今後開発の可能性があるとの事で、さらなる研究の進展が期待されています。また、それぞれの講演で熱心な質疑応答があり時間をオーバーするほどで、このセミナーのテーマについての関心の高さが窺えました。



会場風景

日時：平成24年7月27日(金) 10:00~17:00
 場所：千里ライフサイエンスセンタービル5F ライフホール

●コーディネーター：
 宮坂昌之氏(写真左)
 大阪大学未来戦略機構・特任教授
 高津聖志氏(写真右)
 富山県薬事研究所・所長



Program

- マクロファージの活性化と慢性炎症
 秋田大学大学院医学系研究科・講師 佐々木純子氏
- 細胞老化による炎症と発がん
 公益財団法人がん研究会がん研究所・主任研究員 大谷直子氏
- 炎症の収束における好酸球の新規機能
 東京大学大学院薬学系研究科・准教授 有田 誠氏
- 環境応答破綻と炎症の慢性化
 東北大学大学院医学系研究科・教授 山本雅之氏
- 慢性炎症の構造的基盤
 東京大学大学院理学系研究科・教授 瀧木 理氏
- マイクロRNAと慢性炎症
 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・教授 浅原弘嗣氏
- 慢性炎症に伴う臓器線維化の細胞・分子基盤
 東京大学大学院医学系研究科・教授 松島綱治氏



佐々木純子氏 大谷直子氏 有田 誠氏 山本雅之氏 瀧木 理氏 浅原弘嗣氏 松島綱治氏